



秋を彩る古河のイベント

秋の行楽シーズン。「どこかに行こうかな」そう思ったときは遠い観光地ばかりではなく近くにも目を向けてみましょう。身近なところでいろいろなイベントがあるのです。

合併して大きくなった古河市。10月から11月にかけて、この広い古河市のあちこちで毎週のようにイベントが開催されました。菊まつりや産業祭、文化祭に芸術祭など、どれも見応え十分。市民の皆さんが参加して作り上げているものも数多くあります。

たくさんの人が集まるイベントが、古河の秋を彩りました。

古河菊まつり

古河菊まつりは、菊の愛好家たちが古河菊花愛好会を立ち上げ、昭和28年に福寿稲荷神社で開催したのが始まりです。数年後、この取り組みを市が観光事業の目玉として支援するようになり、さらに発展しました。市民と市が協力して育ててきた古河菊まつりはふるさとの秋を彩る伝統行事となっています。

今年も10月25日から11月20日まで、古河総合公園で開催されました。会場内に展示された菊は約1,300鉢。大輪の三本立菊、千輪菊、小菊による懸崖などが豪華絢爛に咲き誇りました。

訪れた人の中には「毎年必ず見にきています。即売会で花を買うのも楽しみです」と話す人もいました。



◀入り口を入ってまず目に飛び込んでくるのが総合花壇。見事な花壇です。このほか、盆栽菊なども人気がありました。また、11月3日と13日には菊花50鉢が抽選で無料で配られました



▲古河菊まつりは、今年で53回目を迎えました。半世紀以上も続く伝統ある行事です



▲育てるのが難しいといわれる菊。ここまで立派に育てるには、大変な手間と苦労がかかっていることでしょう

総和菊まつり



▲菊むすめは3人。菊まつりだけではなく、さまざまなイベントでも活躍しています



▲一番咲いている時期に見ようと、何度も訪れる人もいます

古河菊まつりと同時期(10月27日～11月23日)に、ネーブルパークで総和菊まつりが開催されました。平成6年から始まったこの菊まつりは、今年で12回目になります。

広々とした会場に飾られた菊の数は約1,300鉢。来場した人たちは、菊花愛好家が丹精こめて育てた見事な菊に見入っていました。

また、土・日曜日と祝日には菊むすめが来場者をお出迎え。菊むすめと写真を撮る人も多く、まつりに花を添えていました。

期間中の11月13日にはイベントも開催。演芸会で、総和民謡舞踊歌謡連合会の踊りや民俗芸能保存連絡会の太鼓、プロの歌手による歌などが披露されたほか、いも煮会や物産展も開かれました。

▶11月13日のイベント。演芸会のステージ前にはたくさんの観客が集まりました。また、姉妹都市・真室川町の物産展や、もちつき大会も開かれました



三和産業祭

第25回三和産業祭が、11月3日（文化の日）に三和健康ふれあいスポーツセンター前の広場で開かれ、家族連れなど大勢の人出で賑わいました。

晴天に恵まれたこの日、会場には農協や商工会をはじめ、三和地区の商工業者や団体などが多数出店し、新鮮な農作物などを販売したほか、焼きそばや焼きとりなどの模擬店が軒を連ねました。

特に地元産の手打ちそばや、バラと米の無料配布は大人気で、長蛇の列ができていました。

また、噴水広場では、三和中学校吹奏楽部のミニコンサート、幼稚園児による和太鼓や総勢約100人による郷土芸能保存会の三和祇園ばやしが披露され、祭りを一層盛り上げていました。



▲採りたての新鮮野菜は大人気



▲集客力抜群の幼稚園児の演技



▲つきたてお餅にも長蛇の列



▲りんご娘が笑顔で「いらっしゃーい」

古河よかんべまつり

古河よかんべまつりが11月5日・6日の両日にわたり古河総合公園で開かれ、家族連れなど約8万5,000人が訪れました。

会場では、市内の商工業者などが出店し、物産品の販売や企業のPRを行いました。また、メインステージでは、子どもたちに大人気のテレビヒーローのキャラクターショーや幼稚園児によるマーチングバンド、吹奏楽の演奏会などが披露され、まつりを一層盛り上げていました。

そのほか、開催期間中に古河よかんべまつり実行委員会(古河商工会議所、古河市、古河市観光協会、JA茨城むつみ古河支店が協賛)が、インド・パキスタン地震の災害義援金を来場者に呼びかけました。合計金額3万8,950円が集まり、日本赤十字社へ渡されました。



▲紙すき・絵手紙づくり



▲会場には古河城が復活!?

◀シャチホコじゃなくてフナホコでした



▲JAまつり会場では地元で採れた農作物を販売



▲憧れのヒーローと握手

文化祭・芸術祭



▶古河市民文化祭（古河会場）
古河市合唱祭



◀◀古河市民文化祭（古河会場）総合展では茶会も開かれました。会場内のすばらしい作品を見たあとに、おいしいお茶とお菓子をいただくという楽しみ方もできます

▶古河市民芸術祭（総和会場）総合展の開催中、会場では、「人形劇」「茶会」「フォークダンスの集い」や「マジックショー」「ニットショー」も行われました



▲古河市民文化祭（三和会場）、力作ぞろいに足も止まります



▲古河市民文化祭（古河会場）小中学校音楽祭



▲古河市民芸術祭（総和会場）うたと踊りの祭典



▲古河市民文化祭（古河会場）小中学校絵画展



▲古河市民芸術祭（総和会場）小中学校音楽会

芸術の秋。この季節になると芸術作品を鑑賞したくなる人や、創作活動をしたくなる人も多いのではないのでしょうか。

古河市内には、文化・芸術活動をしている人がたくさんいます。そんな皆さんの活動の発表の場として、古河市民文化祭（古河会場）、古河市民芸術祭（総和会場）、古河市民文化祭（三和会場）が開催されました。

古河市民文化祭（古河会場）は9月23日から11月27日の2カ月間にわたり開催。期間中はさまざまな催しが、古河地区の各施設で開かれました。なかでも11月3日から6日にかけて古河体育

館で行われた総合展では、書道や写真、美術、フラワーデザインなど、たくさんの作品を展示。多くの人が会場を訪れました。

古河市民芸術祭（総和会場）は、9月30日から11月13日にかけて開催されました。こちらの総合展は9月30日から3日間、総合体育館で開催。絵画や書、写真など6科目で700点以上の作品が出品されました。どの作品を見ても力作ばかり。油絵をじっくりと見ていた女性に話を聞くと「プロではなく一般の人がこんなに上手な絵を描けるなんてすごい。私も以前に少しやっていたんですが、また描いてみようかな」と芸術祭に影響

を受けている様子が伺えました。

このほか、期間中にはユースセンター総和と生涯学習センター総和（とねミドリ館）で音楽祭や展示会などが開かれ、市民の皆さんの芸術活動が披露されました。

古河市民文化祭（三和会場）は11月3日から6日の4日間の日程で開催。三和公民館では華道展や茶会、将棋大会、囲碁大会が行われました。また、三和健康ふれあいスポーツセンターでは、市民の皆さんの作品展示や、音楽・舞踊・着付けの発表会が開催されました。

古河市全体が芸術・文化のまちとなった秋でした。

秋の褒章

黄綬褒章

黄綬褒章は、業務に精励し衆民の模範である人に授与されます。市内では、宮戸俊策さんが受章されました。



宮戸 俊策さん(平和町)
ミヤト倉庫(株) 会長

秋の叙勲

旭日単光章

旭日章は、国家または公共に対し功労のある人で功績の内容に着目し、顕著な功績をあげた人に授与されます。市内では松浦清吉さんが受章されました。



松浦 清吉さん(大手町)
元山梨労働基準局長

瑞宝単光章

瑞宝章は、国家または公共に対し功労のある人で公務等に長年にわたり従事し、成績をあげた人に授与されます。市内では松本寛さんが受章されました。



松本 寛さん(中田)
元各種統計調査員

財務大臣表彰

平成17年度納税表彰式において、古河税務署管内青色申告会連合会会長で古河青色申告会会長の白石和宏さんが、財務大臣表彰を受けました。多年にわたる申告納税制度の普及発展に努められた功績が極めて顕著であることが認められたことによります。



白石 和宏さん(横山町一丁目)

厚生労働大臣表彰



佐藤 孝子さん(旭町)

平成17年度「卓越した技能者の表彰(現代の名工)」表彰式において、和裁の佐藤孝子さんが、厚生労働大臣表彰を受けました。技能の程度が卓越しており、当該技能において第一人者であり、他の技能者の模範と認められることによるものです。

文部科学大臣表彰

平成17年度生涯スポーツ優良団体表彰式において、古河壮年サッカー愛好会が文部科学大臣表彰を受けました。長年にわたりスポーツの普及振興に尽力し他の模範となる顕著な成果をあげたことによるものです。



古河壮年サッカー愛好会の皆さん

茨城県表彰

茨城県では、多年にわたり地域の発展や社会福祉の向上に尽力された人、ボランティア活動等により社会に貢献された団体並びに顕著な活躍により茨城県のPRに尽力された人の功績を顕彰し、感謝の念を表するとともに、県民の範とさせるため、毎年秋に茨城県表彰を行っています。今年は市内から3人1団体が表彰されました。

受賞者・団体は右のとおりです。

○特別功労賞

詩人

粕谷 榮市さん(本町2丁目)

○功績者

茨城県乳業協会会長

中田 俊男さん

元茨城県商工会議所連合会副会長

篠原 健治さん(鴻巣)

○功績団体

八俣ふきの芽会



▲表彰式典で知事と。粕谷榮市さん(最後列左端)と篠原健治さん(最前列左端)



▲中田俊男さん



▲ふきの芽会代表者の皆さん

県大会の覇者たち

○卓球

9月18日に水戸市民体育館で行われた茨城県卓球選手権大会シングルス65歳以上の部で、木村次雄さんが優勝し、県代表として山口県で行われた全国大会に出場しました。



木村 次雄さん(上辺見)

○サッカー

9月23日～10月2日に鹿島市新浜海浜公園で行われた第17回高円宮杯全日本ジュニアユース大会茨城代表決定戦で、アズーSCが優勝しました。



茨城県代表となったアズーSC

○野球

10月1・8日に水戸市民軟式球場で行われた第7回関東学童軟式野球秋季大会茨城県大会で、上辺見ファイターズが優勝しました。



熱戦を制した上辺見ファイターズ

適正な医療を！ ～老人医療費の現状～



○安心して医療を受けられる老人医療制度

老人保健医療制度は、お年寄りの皆さんが病気になったとき安心して医療を受けられることを目的としてつくられました。平成14年10月に医療保険制度が改正され、75歳以上（現在は段階的に昭和7年9月30日以前に生まれた人）がこの制度の対象となっています。

○老人医療はみんなが支えています

老人医療費は、お年寄りが医療機関にかかったとき、本人が窓口で支払うのは定率（1割または一定以上所得者の場合2割）の一部負担金だけで、あとの費用は国民健康保険等の各保険者が共同で負担している「老人保健拠出金」と、国・県・市で負担する公費（税金）で賄われています。

○老人医療費の算出式です

老人 医療費	=	1 部負担金 （1割または2割）	+	老人保健拠出金 （保険者54%）	公費（税金46%） （国30.6% 県7.7% 市7.7%）
-------------------	---	---	---	---	---

※段階的に公費が増加し、平成18年10月には拠出金50%公費50%の割合になります。

○増加が見込まれる高齢者の医療費

今後も高齢社会が進み、医療費が増大すると見込まれています。1人当たりの老人医療費も毎年増加傾向です。高齢社会に適応できる医療保険制度を維持し、安心して医療を受けられるように、医療費の現状を理解しましょう。

○医療費を有効に使いましょう

高齢になると病気にかかりやすく、また治りにくくなるため、どうしても医者にかかることが多くなります。以下のことを心がけるとともに、医療費にも関心を持ち適正な医療を受けましょう。

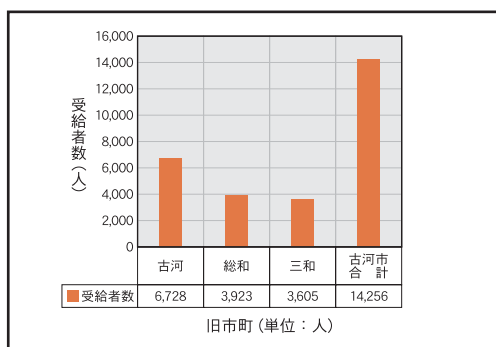
- ・病院のかけもち（重複受診）はやめて、信頼できるかかりつけの医者を持ちましょう。
- ・必要以上の薬をほしがらず、無駄なく正しく服用しましょう。
- ・定期的な健康診断で、病気の早期発見・早期治療に心がけましょう。
- ・生活習慣病の予防のため、栄養バランスのよい食生活、適度な運動、十分な休養を心がけましょう。



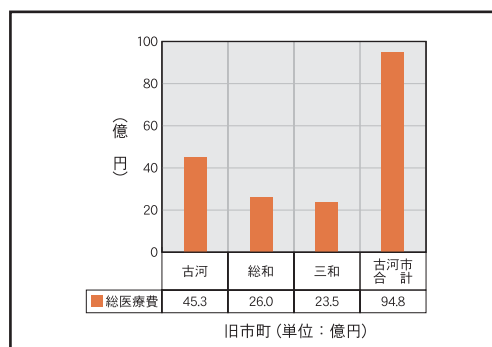
正しい生活習慣を身につけ、健康維持に留意することが、
ひいては医療費の節約にもつながります。

○旧三市町の老人保健医療費等の比較をしてみました（平成16年度老人保健年報及び概況より）

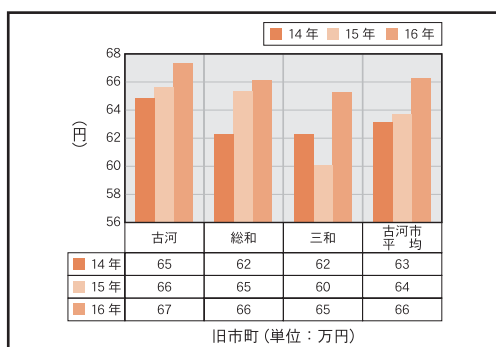
老人保健受給者数（16年度平均）



老人保健総医療費（16年度年間）



一人当たりの老人保健医療費（3年間の推移）



医療費に関心を持ちましょう

市では、医療費の適正化対策の一環として老人保健受給者の皆さんに、2カ月に1度、医療費通知をお送りしています。これは医療費の額を知っていただき老人保健制度の理解を深めてもらうとともに、健康に対する意識を高めていただくことを目的として実施しています。

【問】 保険年金課医療係 本 庁 ☎92-3111

古河支所 ☎22-5111

三和支所 ☎76-1511

冬に備えて～水道管凍結防止～

寒さは水道の大敵。冬場に備えて、早めに冬じたくをお願いします。

気温がマイナス4℃以下になると、給水管や水道メーター、蛇口が凍って水が出なくなったり、破裂したりする水道の凍結事故が多くなります。

□凍結しやすい場所は？

- 水道管がむき出しになっているところ
- 風当たりの強いところ
- 水道管が北向きにあるところ
- 日常、水道水をあまり使わないところ

□凍結を防ぐには……

- 給水管や蛇口には布きれや毛布、専用の保温材を巻き、濡れないように上からビニールテープを隙間がないように巻いてください。
- 水道メーターのボックス内には、発泡スチロールや古い布の詰まったビニール袋を入れ、ダンボールなどをのせて保温してください。
- 水抜き栓・不凍水栓を使用している家庭は、就寝時や留守の際、水抜きを忘れずに。

□水道管が凍ってしまったら……

- 蛇口を開け、凍った部分にタオルか布をかぶせ、蛇口に近いほうからぬるま湯をゆっくりとかけます。急に熱湯をかけると、破裂したり、ひび割れたりすることもあるので、注意してください。

□破裂やひび割れしてしまったら……

- 水道メーターボックス内の止水栓を閉めて水を止め、破損やひび割れた部分に布やテープを巻きつけるなど応急手当をしてから、お近くの指定給水装置工事事業者へ修理をお申し込みください。



【問】 水道課 本庁 ☎92-3111、古河支所 ☎22-5111、三和支所 ☎76-3780

古河市農業委員を紹介します



新しい古河市農業委員会委員が決まりました。委員会は旧古河市・旧総和町・旧三和町の公選による委員38人のほか、農業協同組合、農業共済組合、および土地改良区から推薦された3人と、学識経験のある農業委員4人が議会から推薦され、計45人で構成されています。

また、初の総会が9月28日に開催され、会長に松沼憲治氏、会長職務代理者に白石一郎氏と靄見昌芳氏が互選されました。

新しい農業委員は次のとおりです。

議席	氏 名	住 所 地	備 考
1	秋庭 克之	大山	議会推薦
2	白石 一郎	古河	公選
3	吉田 正之	大堤	公選
4	野口 良衛	西町	公選
5	前澤 安佳	牧野地	公選
6	蒔田多實夫	恩名	公選
7	秋庭 一昭	大山	公選
8	竹村 吉蔵	東山田	公選
9	靄見 昌芳	上片田	公選
10	山室 淵之	下辺見	公選
11	永塚 和美	磯部	農協推薦
12	印出 和夫	上辺見	議会推薦
13	青木 基一	下大野	公選
14	鈴木 光一	久能	公選
15	須永 嘉一	新久田	公選
16	鈴木 博	諸川	議会推薦
17	落合 富次	葛生	公選
18	宇都木義昭	前林	公選
19	栗田 孝雄	仁連	公選
20	白戸 洋一	西牛谷	公選
21	山田 進一	中田新田	公選
22	諏訪 勝夫	小堤	公選
23	大森 昭二	駒羽根	公選
24	北島 徹也	大山	公選
25	初見修二郎	東山田	公選

議席	氏 名	住 所 地	備 考
26	中山 一郎	恩名	公選
27	浅井 清	長左エ門新田	土地改良区推薦
28	野澤 彰夫	東諸川	公選
29	近藤 聡次	鴻巣	公選
30	館野 一郎	東牛谷	公選
31	野本 昇	大和田	公選
32	小菅 武	尾崎	公選
33	高橋 丈吉	上大野	公選
34	大里 八郎	旭町	議会推薦
35	古谷 勝男	東山田	公選
36	斉藤 章一	女沼	公選
37	中村 武雄	山田	公選
38	関 正道	駒込	公選
39	久保 光夫	尾崎	共済推薦
40	加藤 實	三杉町	公選
41	船橋 均	高野	公選
42	野口 武	坂間	公選
43	長濱 俊	茶屋新田	公選
44	小野 清市	水海	公選
45	松沼 憲治	水海	公選



「あなたです 火のあるくらしの 見はり役」

空気が乾燥し、火災が発生しやすい季節を迎え、今年も秋の全国火災予防運動が11月9日から15日までの7日間にわたり実施されました。古河市消防団では、期間中全27個分団が各受け持ち地区を夜間巡回広報して、火災予防を呼びかけました。火災は、生命・財産を脅かす災害です。一人ひとりが注意して、火災のない古河市を築きましょう。



▲いざ出動……がないように火の管理には細心の注意を

平成16年の各地区の火災発生件数

(発生件数)

	古河地区	総和地区	三和地区	合 計
建 物	23	11	13	47
車 両	3	2	3	8
その他	17	9	2	28
合 計	43	22	18	83

平成17年1月1日～9月11日の
各地区の火災発生件数

(発生件数)

	古河地区	総和地区	三和地区	合 計
建 物	23	9	9	41
車 両	2	1	4	7
その他	13	4	0	17
合 計	38	14	13	65



▲火は瞬く間に建物をおおいます

ポンプ操法大会 準優勝

10月23日、第56回茨城県消防ポンプ操法競技大会西南地区大会が水海道市で開催され、古河市総和消防団第10分団が準優勝しました。この大会は、出動態勢から放水までの確実な操作と時間を競うものです。市民生活を災害から守るボランティアの消防団員の皆さん。日々の訓練の成果が実りました。



▲火点に向かって全力疾走



▲古河市総和消防団第10分団の皆さん

第8回 青少年のための科学の祭典 総和大会

11月12日、広域中央運動公園総合体育館をメイン会場として、第8回青少年のための科学の祭典総和大会が「科学は生活を変える 科学は世界を変える 古河のちびっこ世界にとびだせ」という願いを込めて開催されました。

会場内外のブースには、参加した小・中・高校、大学や企業、さらには街の科学者たちの、子どもたちに科学の楽しさ・すばらしさを伝えるための仕掛けがズラリ。子どもだけではなく大人も十分に楽しめる催しでした。



▲科学って面白い。会場内は未来の科学者たちでいっぱい



▲手作り乾電池作成中



▲うまく飛ぶかな、私のロケット



▲ロボットコンテスト直前、マイロボット最終調整

古河市横断に挑戦！ ジョイントウォーキング

10月30日、静御前会議主催による「第3回YOU・遊・夢街道まつり」が行われました。古河総合公園から三和健康ふれあいスポーツセンターまでの約14.7kmを徒歩で横断。参加者は350人。しっかり準備体操をして、午前10時に出発。古河駅を横切り、十間道路をひたすら東へ。東北新幹線を越え、フラワーロードで一休み。田園風景を横目にさらに東へ。新4号国道を渡り、ゆっくり歩いてゴールへ到着。約3時間の徒歩の旅を楽しんでいる様子でした。

▶家族で友達同士で、ゆつくり楽しく古河横断





松沼 憲治さん

(水海・72歳)

ー農業に携わったのは……

昭和27年、学校を卒業して親のもとで就農しました。当時は農家の長男は農業を継ぐのが当たり前でした。また、慢性的な食糧不足でしたので、つくりさえすればなんでも売れ、前進栽培（ビニールハウスなどで季節より早く栽培すること）すれば高く売れる時代でした。でも、私が学校で6年間学んだ農業化学の先生は「化学肥料は土を老化させる」が持論。私はそれを守って安全な農作物栽培に努めました。

ー具体的にはどのようなことを……

農作物栽培には土が大切。その土は微生物の働きで作られると思っています。

40数年前に、前進栽培するため夏きゅうりを不自然なビニールハウスの中で真冬に収穫量をピークにするには多量の熱資材が必要でしたので、落葉や稲ワラの発酵熱を利用したのです。今日では、電気も油も豊富にあります、今でも電気や重油は最低限の使用にして、化学肥料の代わりに自家製の安全確認済みの有機質肥料を使い、消費者の食の安全や健康需要に応えています。

親の代から行ってきた、竹やぶや落葉の中から採った土着の微生物を、米糠こめぬかを利用して独自の方法

現代において誰もが関心の高い「食の安全」。半世紀前に「食の安全」に着目し、安心・安全な農作物作りを「松沼方式」といわれるボカシ肥料によって探求する、農業家松沼憲治さんにお話を伺いました。

ブックレビュー - Book Review -

池宮彰一郎著

『天下騒乱－鍵屋ノ辻－』

「曾我兄弟」「忠臣蔵」とならび、日本三大仇討ちの一つ「鍵屋の辻の決闘」。講談や小説で度々取り上げられる、三十六人斬の荒木又右衛門はご存じの方も多いと思います。

今回はこの「鍵屋の辻の決闘」を描いた作品『天下騒乱』をご紹介します。著者の池宮彰一郎は大正12年東京生まれ。脚本家を経て平成4年『四十七人の刺客』で作家デビュー。同作で新田次郎文学賞、ほかに柴田錬三郎賞等を受賞しています。

この作品、「どこが古河と関係あるの?」と思われる方もいらっしゃるでしょう。ところがどう

して、古河と大変関係の深い人物が描かれているのです。『天下騒乱』の中心的登場人物は三人。仇討ちの主役・荒木又右衛門、又右衛門の剣の師匠・柳生十兵衛。そして、仇討ちを超えて旗本対大名



の戦さに発展しかねないこの難事件の收拾に辣腕らつわんを振るう、時の幕府年寄（のちの老中）・土井大炊頭利勝。この土井利勝こそ古河藩十六万石・土井家の藩祖となるその人なのです。

利勝は「智謀並ぶものなし」と謳うたわれ、徳川家康・秀忠・家光の三代にわたり初期の幕府を支えた実力者でした。巷説こゝろざつでは家康の

「御落胤」ともいわれ、のちには大老にまで昇りつめました。

ところで現在の古河の春の風物詩・桃まつり。古河の地に桃を最初に植えたのは利勝と言われています。薪不足の解消のため、生長が早い桃を植樹したのです。また、歴代古河藩主中、在籍期間がもっとも長かったのは利勝を祖とする土井家で、現在でもその影響は街のあちらこちらに色濃く残っています。まさに、利勝が古河のまちの礎をつくったといっても過言ではありません。

そんな土井利勝が活躍する『天下騒乱』。正月早々には、新春ワイド時代劇としてテレビ放映されるとのこと。古河ゆかりの人物を「読む」「見る」二重に楽しんでみるのも一興です。

(古河文学館 秋澤正之)

で増殖させ、これを
種菌として米糠、菜
種粕その他数種類の
材料を発酵させて作
った微生物の塊のよ
うなものが「ボカシ

肥」です。純度の高い「ボカシ肥」
は、肥料だけではなく土の団粒
化(土をふわふわさせること)と
土の中の堆肥の養生との相乗効果
もねらいです。結果として40年
以上の連作が可能となりました。

病虫害防除は、科学農業に頼ら
ず、黒砂糖・玄米酢・ドブクロを
基にした手作り植物農薬、モミ酢
やニンニク等を調合して作った害
虫忌避剤を散布し、自然の摂理に
従った農業をしています。

安全・安心、愛情注いだ
キユウリ



▲手作りのボカシ肥料生産 (1992 年)

—今後の目標は……

安全・安心な農作物栽培は話せ
ば1分、書けば1行ですむ簡単な
言葉です。しかし、その方法を確
立しようと努めています。毎年
が1年生で、反省ばかりです。一
生かかっても確立できないでし
ょう。でも、数多くの人から「この
農法を後輩たちに伝えるべきだ」
との声をいただいていますので、
微力ながらお役に立てればと思っ
ています。

—ますますのご活躍を期待いたし
ます。本日は貴重なお話をありが
とうございました。

10年間にわたって農業専門誌
出版社の依頼によりに自らの農法
を執筆している松沼さん。ボカ
シの作り方の販売用ビデオの制作
や、農業技術書「発酵利用の減農
薬・有機栽培」を企画出版してい
ます。そのため国内はもとより海
外から視察団や研修、講演依頼が
絶えません。

図書館

おすすめの図書

◇一般書

・「告白」

チャールズ・ジェンキンス 著

韓国駐留の米軍兵だった彼が北
朝鮮へ渡った理由、曾我ひとみさ
んと運命の出会い、拉致の実態
と、他の被害者の消息…。北朝鮮
でのすべてを明らかにするノン
フィクション。

出版社 角川書店

・「女教皇ヨハンナ」

ドナ・クロス 著

カトリック教会の記録から抹消
され、伝承としてのみ語られてき
た男装の女教皇。ヴァチカンが実
在を拒否し続ける伝説のヒロイン
の物語。

出版社 草思社



◇児童書

・「かめきちのたてこもり大作戦」

村上 しいこ 著

かめきちが公園へ行くと、し
んごがひとりで寂しそう。「かあ
ちゃん、おれのさみしい気持ち
なんか、ちっともわかってくれ
へん」と悲しそうなしんごに「大
丈夫や。まかしとき」と言ってし
まったかめきちは……。

出版社 岩崎書店

・「ゆきのひのホネホネさん」

にしむら あつこ 著

ホネホネさんはゆうびんやさ
ん。ゆきがふったのでスキーをは
いて出発！ザクザクシューッ、ザ
クザクシューッとすべってたくさ
んの人にゆうびんをとどけます。

出版社 福音館書店

(三和図書館資料館 燦SUN館)



古河の文化財

静御前の舞衣

今年のNHK大河ドラマ「義経」もいよいよ最終回を迎えます。源義経や静御前の伝説は全国各地に残っていますが、市内にも静御前の伝説が多く残っています。

中田の光了寺には静御前の舞衣と伝えるものが残されています。これは「蛙蟻龍の御衣」(縦93cm、横59cm)とよばれています。中国の明時代(1368年～1644年)の末期に製作されたと考えられ、市指定文化財(工芸品)になっています。

伝承では、静御前が京都の神泉苑での雨乞いの舞で、みごと雨が降った褒美として後鳥羽天皇から賜ったものといわれています。

市内の静御前伝説は、江戸時代に光了寺から出されていた「静女蛙蟻龍舞衣略縁起」(木版摺)がもとになっていると思われます。文政9年(1826年)に出された略縁起には、古い版木が摩滅したので改版した旨が記

されていて、文政9年以前から略縁起が出され流布していたことがうかがえます。また文化人の関心も高く、松平定信らによって舞衣の箱や袱紗などが寄進されています。

略縁起の改版や諸品寄進の年代により、18世紀後半から19世紀前半が、舞衣が広く宣伝され注目された時期だったといえるでしょう。

なお舞衣拝観の場合には、事前に連絡をとるようにしてください。



◀蛙蟻龍の御衣

コミュニティ通信

話・和・輪で地域を一つに 名の崎会

三和地区では、平成5年から6つの小学校区単位でコミュニティ団体をつくり、それぞれの団体が特色ある活動をしています。

その中の一つ、名の崎会は名崎小学校区で組織された団体です。15行政区の約2,400世帯が会員となり、「親しみ ふれあい やすらぎ」をテーマに活動しています。防犯パトロールや夏祭りなどさまざまな活動していますが、特に力を入れているのがスポーツを通しての交流です。11月19日には、毎年恒例の「ファミリースポーツ大会」を三和東中学校で開催しました。この大会でも重視しているのが、人とのつながり。他のスポーツ大会ではあまり見られない、三世代で楽しむ競技があるのも人とのつながりを大切



▲名崎サンタ宅配便

にしている表れといえるでしょう。

もう一つ、特徴的な活動は「名崎サンタ宅配便」です。これはサンタクロースに扮した役員が、各家庭にプレゼントを届けるというもの。サンタになった役員は「プレゼントを持っていくと、すごく喜んでくれるし、中

にはお礼の手紙まで用意してくれている子どももいます。できる限り続けていきたいですね」と、ふれあいの大切さを感じています。

会長の舟本巖雄さんは「コミュニティ活動は、人々がふれあうことで、防犯や一人暮らしの高齢者など最近の問題を解決することにも役立ちます。このような活動を、この地区だけではなくもっと広げていきたいですね」と話していました。





パークライフ

赤ちゃんと一緒に冬の公園を楽しもう！（古河総合公園）

アパート暮らしで、赤ちゃんが泣き出すとストレスになってしまう。旦那さんが出勤すると、赤ちゃんとうまくいかなくて……。

赤ちゃん連れのお母さん、部屋に閉じこもっていないで、古河総合公園に来てみませんか？

公園なら、ご近所さんを気にせず、赤ちゃんを大声で泣かせても大丈夫ですよ。遠い昔、古河公方さんも、赤ちゃんの夜泣きが激しいときは、おんぶして館の周りを散歩したのでしょうかね？

12月の園内は、落ち葉がいっぱい。葉っぱを両手いっぱいに集めて舞いあげたり、足をブルドーザーにしてカサカサとかきわけ進



▲落ち葉のシャワーだ、ザバァッ♪

めば、ちょっとした気分転換になりそうです。

イタズラ盛りのちびっ子がいるお母さんも公園に来てみましょう。部屋の中にいるから、「散らかさないで」「それさわっ^{しか}ちゃダメ」なんて、ついつい叱っちゃう。落ち葉遊びで、お子さんと一緒に、楽しく、葉っぱを散らかして遊んでみてはいかがでしょうか。元気に遊べば、夜更かしのちびっ子もぐっすり、お母さんはニコリ！

このコーナーでは、公園づくり情報を紹介しながら、公園における市民生活（パークライフ）の楽しみ方を、皆さんと一緒に見つけていきたいと思います。

【問】古河総合公園管理棟

パークマスター ☎47-1129

趣味ゆうゆう

悠久のリズムで心と体をリフレッシュ 太極拳クラブ



サークル館（総和勤労青少年ホーム・総和働く婦人の家）の太極拳講座の卒業生が母体となって4年前に発足した女性ばかりのクラブです。

最初は9人でスタートして、現在は24人で賑やかに活動しています。毎週火曜日の午後、サークル館の体育室に三宮美代先生（講座のときからの先生）をお迎えして、たっぷり2時間の太極拳。精神統一して呼吸を整

え、悠久の音楽にあわせて体をゆっくりと動かします。

年齢もばらばらの24人ですが、太極拳を通して体力をつけ、健康を保つという目的は皆同じ。時々太極拳を離れて、お花見や食事会など行いながら和気あいあいと楽しく活動しています。

楽しみといえばもうひとつ。普段の活動中の休憩タイムです。太極拳は、見た目はゆっくりしていますが、実はかなりハードです。一生懸命動いた後に、飲み物やお菓子などをもち寄って、しばしのおしゃべりタイム。ストレス発散のためにもおしゃべりは大切……先生の教えでもあります。

「太極拳とおしゃべりで、気持ちがまろやかになったかも」と話してくれるクラブ員の人も。太極拳にまつわる先生のお話も、とって心をもっと穏やかにしてくれます。

ゆっくりと心乱さず





▲1970年ころの旧古河駅舎（西口）。明治の時代から現在まで姿を変えながら思い出のランドマークとして

愛知県に住んではや8年、それ以前にも4年住んでいたの延べ12年となります。

16歳と14歳になる娘は古河が故郷とはもう思っていないかもしれません。子どもたちには2回も転校をさせ、その度に「友達ができるだろうか」と心配しましたが、ここ愛知県は合縁奇縁、最初からたくさんの友達ができ、無用な心配でした。今では私たち家族にとってこちらが完全に生活の基盤となっています。

さて、そんな中、ふるさと古河へは何度も出張や定期帰省で訪れているので、実家や会社の近辺の変化に気づきませんでした。改めて振り返れば大きく変わったようです。この夏に帰省したとき、自転車で旧昭和町から長谷寺に抜けようと散策しながら通ってみると昔の道とは全く違って、古河市役所前（今は支所）に出てしまいました。高校時代の感覚で通りましたので、20数年ぶり、浦島太郎のようでした。

古河の思い出ですぐに思い浮かぶのは旧古河駅です。私が20歳くらいまでの古河駅は木造で、もちろん自動発券機はなく、窓口で厚紙の切符を買いました。線路も高架線ではありませんでしたので、踏み切り待ちの渋滞の光景が懐かしく思い出されます。特に旧鍛冶町側の踏み切りはすぐに閉まってしまいました。そういえば、一度遮断機が閉まってしまい、車ごと踏み切り内に取り残されたことがありました。でも当時は「遮断機のおじさん」なる人がいて、その人に助けてもらったという思い出があります。

古河駅西口を降りると駅前通りの左手には喫茶店や洋菓子屋、右手には食堂やレコード店があり、突き当りには本屋。学生時代には、本屋やレコード店を巡り、最後は喫茶店に。ちょっと暗めの店内でコーヒーを飲みながら、もの思いにふける。当時で言うところのモラトリアムな時間を過ごしていました。今から思うととても贅沢な時間を駅周辺の商店街からいただいたような気がします。



愛知県在住
渡辺 均 さん



いつまでもスキーを楽しみたい 長塚 由美子さん(幸町)

初めてスキーをしたのは19歳のとき。絵に描いたような美しい雪山の景色に感動し、一瞬でスキーが好きになりました。始める前は寒がりでも冬の季節があまり好きではありませんでしたが、スキーを始めてからは天気予報で「雪」

の予報が報じられるとわくわくします。

スキーの魅力はなんと言っても一面に広がる銀世界を滑る爽快感。スキーの後の温泉も楽しみのひとつですね。

今後の目標はバジテストで1級を取ること。2回挑戦して失敗しているので今度こそ合格したいです。

最近ではスキー大会にも出場しています。第37回花桃杯では、女子Ⅲ部(50代の部)で優勝しました。大会に出ると選手としてのドキドキした気持ちを味わえるので楽しいです。

スキーは子どもから大人まで幅広い年代で楽しめるスポーツ。やってみたいと思ったら、古河スキー協会などで実施しているスキーツアーに参加してみてください。きっと新しい世界が開けますよ。

健康情報局

めざせ健康長寿ー脳の老化を予防しようー

年を取ると、体のさまざまな機能が低下します。脳も「神経細胞の数が減る」「血流が悪くなる」「萎縮する」などの変化が生じ、機能が低下します。

○前頭前野の働き

脳は、いくつかの領域に分けられます。その中の「前頭前野」は脳の司令塔とも呼ばれ、「ものを考える」「理性的になる」などの働きをします。加齢による脳機能の低下や認知症は、この機能が衰えることで起こります。意外なことに前頭前野は、物事を熱心に考えたり、複雑な計算をしたりするときにはあまり働きません。

○前頭前野のトレーニング

① 1桁の足し算・引き算など簡単な計算問題を解く。

② 声を出して新聞や本などの文章を読む。

③ 日記をつける。

④ 料理をしたり、絵を描いたりして指先を使う。

⑤ 人との会話を楽しみ、大いに笑う。一緒に遊ぶのも良い。

○トレーニングの効果

10分程度、毎日行くと効果的です。医学的には3カ月後に、トレーニング前より脳機能がよくなったことが確認されています。

意識的に脳をトレーニングすることが、脳の老化や認知症の予防に役立ちます。

(健康推進課)



表紙写真



天高く馬肥ゆる秋。11月は、市内でさまざまなイベントが行われました。

写真は11月3日に開催された三和産業祭でのひとコマ。幼稚園児による和太鼓の演奏です。少しのけれん味もなく奏でられる威勢の良い太鼓の響きは、澄み渡った秋空高くまで届きそう。集まった大勢の観客からは、盛大な拍手が送られていました(関連記事は4ページ)。

人口と世帯

(10月末日現在 住民基本台帳から)			
総人口	146,958人	(+37)	
男	73,700人	(+2)	
女	73,258人	(+35)	
世帯数	51,502世帯	(+28)	
()内は前月比			

新「古河市」の市章アンケートを実施します

平成17年10月11日に古河口市章候補選定委員会が開催され、応募作品1,026点の中から新古河市のデザインにふさわしい5点の作品が選定されました。

今回、この5点の候補作品についてアンケートを実施し、新「古河市章」を決定します。

皆さんからの1票をお待ちしています(投票は1人1票です)。

**アンケート締切
平成17年12月15日(木)**

もっともふさわしいと思う作品を1つ選びアンケート用紙の記入欄に○をつけてください。

	A	B	C	D	E
カラー					
モノクロ					
趣旨抜粋	「こ・が」の文字を組み合わせ、利根川、渡良瀬川、関東平野、猿島台地など豊かな自然を図案化したもの。	古河の頭文字の「K」を、希望に満ちあふれた青空へと飛び立つ鳥としてデザインしたもの。	古河の「こ」の文字を、関東平野と利根川をイメージし、合併数を配した清流で表現したもの。	古河の「古」の文字を基調に豊かな自然の中でいきいきする古河市民を象徴的に表現したもの。	頭文字の「古」をモチーフにして、躍動感があり希望に満ちた「いきいき古河」をイメージしたもの。

平成17年12月1日発行

※決定した市章には、若干、色やデザインの補正をします。

-----キリトリ線-----

用紙

古河市 市章アンケート

もっともふさわしいと思う作品を1つ選び○をつけてください

A	B	C	D	E

2つ以上○をつけると無効投票になります

★投票できるのは市内在住の人で、
1人につき1票です

※住所・氏名は必ずご記入ください。記入がない場合は無効となります。集計後、この用紙は市役所で責任を持って処分いたします。

住所	古河市
氏名	

投票締切 平成17年12月15日(木)

アンケート投票場所

○古河市役所

本庁・古河支所・三和支所 各市民課ロビー

○中田公民館

○ユースセンター総和

○古河西公民館

○三和図書館資料館(燦SUN館)

○古河東公民館

○三和農村環境改善センター

○小堤公民館(つつみ館)

●上記、いずれかの施設で投票してください。

●施設によって開設時間が異なりますのでご注意ください。

●不足分の用紙は、各投票所に備え付けてあります。

【問】 本庁企画政策課 ☎92-3111



再生紙を使用しています。

環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

●発行所／〒306-0029 1 茨城県古河市下大野2248 古河市役所
●編集／古河市広報広聴課 ●ホームページ／http://www.city.furukawa.lg.jp/ 0280-923111